



Galeola septentrinalis

ツチアケビ（ラン科、ツチアケビ属）

花落叶樹林の林内に生息するラン科の腐生植物。日本固有種である。

腐葉土に生育するキノコから養分を得ている。菌従属栄養植物としては草丈が高く1mの高さに達し、初夏に3cmくらいの大柄な黄色い花を咲かせる。

秋には、全体が真っ赤になり、5cmほどの果実をつける。多数のウィーンナーソーセージをぶら下げたような姿になりよく目立ち、植物愛好家やハイカー達がカメラに収める人気のある植物である。

腐生ランは生育環境が限定されるものが多いが、ツチアケビはグリーンセンター付近、近くの林内でよくみられる。

東京都のレッドデータブック評価ランクは、絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。



森林南高尾風景林の森づくり協定を更新

5 年間の全体活動計画を作成

龍 久仁人



刈り出し

東京神奈川森林管理署 と“ふれあいの森における「南高尾風景林」の森づくり活動に関する協定”を締結して活動を行っていますが、署の施業計画の改定期に合わせて3月25日付けで協定の更新を行いました。新協定の期間は、令和8年3月31日までの5年間で、今後はこの協定に基づき自主的な全体活動計画を作成して、署と密接な連携を保ちながら森づくり活動を進めていくことになります。

この森は、戦前は皇室の御料林として積極的な植林が行われてきたことから、ほぼ全域がスギ、ヒノキの人工林となっていますが、戦後は国有林に編入され、森林に対する要請の変化に即して、現在では木材生産よりも人と自然の共生に最も配慮すべき森林として位置づけられています。施業上の扱いも「南高尾風景林」に指定され、針葉樹と広葉樹の混じった混交林に誘導していくこととされています。

今回 作成した全体計画でも、南高尾風景林の名にふさわしい“多様で豊かな森の再生”を目指して森林整備を進めていくことにしています。人工林は間伐をくり返して巨木の森に、間伐した森林に混生してくる広葉樹はこれを育てて針広混交林に、更に将来は元もとあった広葉樹主体の自然の森に近づけていくことが目標です。

梅ノ木平国有林では、2012年と2015年に大規模な間伐が行われました。強度の間伐と集材路作設等による攪乱によって、それまで密状態となっていた人工林はかな

りすっきりとした森林に生まれ変わり、部分的には林冠の開けたギャップも適度に生じるなど、生態系の多様性が高まりました。

ギャップ地の再生状況は、場所によってさまざまで、ヤマザクラ、ハリギリ、ホオノキなど高木となる樹種の更新が可能なのところもあれば、つるや灌木類が優占してやぶ状になり、高木種による更新が難しいとみられる場所も生じています。このため計画では、前者では競合するつる類や灌木を伐採する天然林施業・刈り出しを行い、後者では広葉樹の植樹を行うことにしています。上層の林冠を落葉広葉樹が占める4

層構造の森林への誘導を促進します。

また 間伐跡地では、将来高木となる落葉広葉樹の生育を阻害しているアオキなどの灌木類やシイ、カシなどの常緑樹の除伐を行って更新の速度を速める作業を行うとともに、切り捨て間伐を行う必要のある森林では、保育のための間伐を積極的に行います。このほか植樹地の下刈り、作業路の整備、被害木の処理などの作業を実施します。

一方、森林整備と並行して青少年や市民の森林体験を支援することも会の重要な活動として計画の中に位置付けており、高尾グリーンセンター利用者などに呼びかけて森林教室や作業体験会を実施します。そのための活動施設として国有林内に作業小屋兼資材置き場を設置しましたが、これらの施設・フィールドを活用して、伐木作業技術や各種の体験支援スキルの研鑽にも努めながら、さらなる多様な活動を続けていきたいと思っています。



植樹地

新人の抱負

昨年度は、前期の3人につづき新たに14名がこの会に入会していただき活動もにぎやかになってきました。どうぞよろしくお願いします。



山の作業は楽しい 椿 喜行



生まれも育ちも八王子なので高尾の森との縁は、実は長い。遠足と言えば高尾山だったし、部活のワンダーフォーゲルのトレーニングといえば稲荷山コースと決まっていた。文字通り毎日のように通っていた。社会人になり一時、高尾から離れた時期もあったが、山や森の原風景として、

いつもどこか心の中にあった。トレイルランニングに出会い、再び高尾の森は身近なものとなった。木漏れ日に包まれ、土の匂いを感じて走るのは心身ともに再生されるようで夢中になった。自分が感じた喜びを、次の世代にも継いで行きたいと考え始めた頃、森林ボランティアのお誘いをいただき、まさにこれだと飛びついた。森に分け入り、除伐をした稜線を振り返ったときに、ちょっと前まで暗かった森が明るくなったことに気づいた時の満足感。人が手を入れる事で自然がバランスを取り戻すのだと、やりがい強く感じた。参加して、たったの四ヶ月。ナタもノコも、まだまだ使いこなせないが、先輩方の指導を受けながら、多少は上達できたのかなと感じ始めてもいる。チェーンソーなど、新しく取り組んでみたいことも多くある。真冬から参加したので、春から夏、そして秋にかけて季節が移ろう森で作業するのが今から楽しみだ。

よろしくお願いします 道明 真理

3回のお試し活動をなんとかクリアし、4月から会員としてお世話になります。上りはハアハア、下りは恐々、作業は足場が決まらずへっぴり腰で、何をしに参加しているのか自分でもあきれてしましますが、ケガなどしないよう、安全に楽しく取り組みたいと思いますのでよろしくお願いします。人の手により植えて育てた森林に手を加えることで、新しい森づくりにつながることを実感できれば嬉しいです。



木々がCO2を吸収して成長することは周知のとおりですが、森林はCO2吸収による温暖化防止にも期待されています。木を多くの人に使ってもらうことで、森林の整備や若返りを進めてもっと森林にCO2を吸収してもらおうと、15年ほど前から知る人ぞ知る（あまり知られ

ていない）「木づかい運動」、木を使うことを知ってみんなで木を使おうという運動が国や地方公共団体を中心に展開されています。ここ数年はオリンピック会場での国産材利用や、ゼネコンによる木造高層建築物に向けた取組など民間企業等でも木材利用が盛んになってきています。都内でも「WITH HARAJUKU」や国立競技場向かいの「三井ガーデンホテル」など木を使った施設や店舗がたくさんあります。興味のある方は「Love Kinohei #きになるところ、#木のあるところ。お出かけナビ (<https://visit.kinohei.jp/>)」をチェックして訪ねてみてくださいね。

「Love Kinohei」には、身近なところで使える木製品も紹介しています。なにかお気に入りのものが見つかるかもしれませんよ。

三井ガーデンホテル
神宮外苑の社プレミア





ようこそ！ 墨田区立中和小学校5年生 未来のきこい達！！

11月12日（木）生徒47名が4名の先生方に引率されてグリーンセンターを訪れました。社会科授業の1単元である「林業について」の学習を、現場で体験し考えを深めようという学校行事でした。大型バス2台に乗り、林道入り口から歩き10時過ぎにセンターにやってきました。

代表から、ここ南高尾山稜で針広混交林化を目指す活動の意義の説明を聞き、ノコギリを腰に山へ入り、午前中はカツラ、



トチノキを植え、午後はアオキ、アラカシなど灌木の除伐をし、コースター作り、焼き印押し、川遊びを楽しみ、1時半頃元気に帰っていききました。知識欲旺盛で礼儀正しく、注意を守り作業をしました。山での体験が彼らの成長のエネルギーになることでしょう。参加者全員が感想を書いて文集を送ってくれました。

■先生より

子供たち並びに私たち大人まで大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました、大自然の中でのびのび心も体もリフレッシュし、帰りのバスはみんな笑顔が絶えませんでした。

■生徒たちより

★今回初めて林業体験をして森林を守ることの大切さを知りました。除伐はのこぎりで切るので時間がかかり、一番楽し



かったのは植林です。苗を植えるのは初めてだったので、苗を植えて土をかぶせ終わった後に土を強く踏むことに驚きました。除伐、弓矢も楽しかったです。

★森林は、都会より落ち着く場所だと思いました。苗が大きくなるまでに30年かかると聞き驚きました。大人になったら植えた木を見に来たいです。山に興味を持ち、山のいいところを皆に伝えたいと思います。

★貴重な体験をありがとうございました。除伐が一番楽しかったです。難しかったですが、背よりも高い木が切



れたときは達成感がありました。山を登った時も降りた時も滑りました。

★焼き印をした木はゲーム机（勉強机）の

上に飾りました。川ではカニや魚は見つけられなかったけど、浮き石でアスレチックをしました。



★森林の大切さを

教えてくださりありがとうございました。スギとヒノキの見分け方、ノコギリの使い方を教えていただきいい経験になりました。除伐や植林をすることで自然の仕組みを知ることができました。

★自然を守るには人が努力しなくてはいけないことがわかりました。私が植えた木で少しでも自然が豊かになればと思いました。自分からできることを探して自然を守りたいと思いました。





草木染めも楽しい!



①スギの葉



②インド藍（マメ科）

午前中ハイキングを楽しんだツアーの一行がセンターを訪れた。参加者は、草木染指導者1名を含む12名。草木染の体験をする場所にセンターを利用した。

染料は①スギの葉と、②インド藍（マメ科）

①午前中にスギの下枝と葉を採集して30分鍋で煮出し、染料液を準備。薄いベージュ色の液になり、酸化カリウムを加え酸化させると濃い茶色になる。布を染めるとベージュ色に染まった。

②インド藍で、手ぬぐいを絞り染めする。染め液から引き上げるとエメラルドグリーンに染まっているが、空気に触れさせると見る間に藍色に変化し、思わず歓声が上がる。酢を入れた湯で定着させ水洗いして干すと藍染の手ぬぐいの出来上がり。

見学した千谷、丸山、龍の3人も体験させてもらい、今後体験活動の一つに加えられるよう研究することを確認した。

山にある木々、草花ほとんどを染料にすることができる。

サクラの樹皮でピンクに、クサギの実でブルーに、クチナシの実で黄色に、クヌギの殻斗で茶色に染めることができるなど。

木灰、酢、鉄などで媒染することで、人々は昔から身近な植物を染料にして多様な色で布を染めて楽しんだのだろう。

「匂う」という言葉は平安時代前期までは、色が美しいことを表現した。

草木を煮出した染め液は独特の匂いがし、色と香りが結びついていたのかもしれない。

グリーンセンターが、テレビドラマ「ネメシス」の撮影現場になった

3月16～21日、映画製作会社クレデウスの作品。

ボンコツ探偵と天才助手が事件を解決するという筋書きで人気俳優、タレントが演技をしていた。どんな映画が出来上がるのか楽しみである。

日テレの日曜ドラマシリーズ「第5話」（5月9日）にドラマの舞台「天狗キャンプ場」として登場予定。



森づくり研修会 を実施

日本山岳会埼玉支部 自然保護委員長 渡邊 嘉也



日本山岳会埼玉支部は埼玉県下で森づくり活動を行っているが、作業スキルの向上のため、毎年グリーンセンターで技術研

修会を行っている。今年は、自然保護委員会の委員5人と他山岳会1名の6人がこの研修会に参加して、11月14日～15日に行われた。森の大切さを考える良い研修でした。

・間伐(14日10時～12時)：スギ林内で伐倒、玉切り、枝払いを手鋸のほかチェーンソーを用いて行った。チェーンソー作業の指導を受けた。

・植樹地の整備と除伐(14日13時～17時)：明日の植

樹の準備として、植樹場所の地拵えと植樹の位置を決めるための篠竹刺しを行った。(100㎡当たり10本程度)また植樹地周辺の除伐を行った。

・植樹、歩道整備(15日9時～11時)：仮伏せしてあったカツラ、ヤマザクラの苗木40本を掘りだし、篠竹につけた名札と照合して植樹を行った。除伐地内の歩道を唐鍬を用いて整備した。



・動植物観察(14日20時～22時、15日11時～14時)：夜山歩きの観察でタヌキを目撃、翌日は植生観察を行った。(アブラチャン、クサギ、タブノキ、ウワミズザクラ、ハリギリ、エゴノキ、カラスザンショウ、ムラサキシキブ等)



トレイルランニング国際大会 日本代表会 11月20日～22日

不眠(殆ど不休)のまま長時間走り続けることを競う大会が行われた。センター玄関を始点・終点とし林道进行することを繰り返す、30名の参加者のうち53時間走り続けた吉田さんが優勝し世界大会の日本代表者に決まった。

センター付近には、運営委員、選手、サポーター60名ほどが夜を徹して集まり、壮観な眺めであった。欧米で盛んな競技で1年程前から日本で行われるようになったという。

動物調査を始めました

センターの周辺にトレイルカメラを設置して動物の生態を調査しました。

早速、タヌキ、アライグマ、キテン、ニホンノウサギ、ヒメネズミが挨拶に現れました。昼間のカラー画像ではルリビタキ、カケス、トラツグミなど多くの鳥類が観察されます。詳細は次号で。



アライグマ



タヌキ



ルリビタキ

作業小屋兼資材置き場が 完成しました



柱などの資材は間伐材を利用した手作りの小屋です。棟梁は川島会員。雨の日の森林教室もこれで大丈夫。

グリーンセンター周辺で見られる植物 長谷川 守

梅ノ木平から三沢峠までの榎窪沢沿いのハイキングコースは1年を通して訪れる人の目を楽しませてくれる。早春は木々や草花が芽吹き春の訪れを告げ、夏には木々が葉を広げ暑さを凌ぎヤマユリの大きな花の香りが疲れを癒してくれる。



秋から初冬は落葉樹の紅葉、そして落葉が足元を彩る。

シダも10数類は確認できるので忘れないでほしい。

この一帯の梅ノ木平国有林はレクリエーションの森“南高尾風景林”に指定されており、植物の種類も多く保護されている。高尾山周辺の約2,600haには1,598種（注1）が確認されているがこの南高尾周辺も含まれている。

3月下旬にこのコースを歩いてみるとアズマイチゲ、ニリンソウ、ミヤマカタバミの白い花が目についた。その周りにはユリワサビ、トウゴクサバノオの小さな白い花もあり、カンسゲも地味な穂を出している。山側の斜面にヤマルリソウも可憐なブルーの花を咲かせていた。夏に向け、ウバユリ、ミヤマフユイチゴ、ミヤマキケマン、ミミガタテンナンショウ、ミゾホオズキ、ミゾソバ、アズマヤマアザミの葉も緑を増していた。ヤマネコソウ、ヨゴレネコノメもある。タチツボスミレ、ナガバノスミレサイシン、ヒナスミレ、マルバスミレ、コスミレのスミレ類も確認でき、もう少し早い時期はアオイスマミレもあり、少し遅れてツボスミレも咲きだす。

樹木はスギ、ヒノキ林の中に落葉広葉樹が入り込んで、高木になっているものもある。ホオノキ、ミズキ、イイギリ、ムク

ロジ、イタヤカエデ、フジキ、フサザクラ、ヤマザクラ、カラスザンショウ、など、中低木ではアオキ、ガマズミ、ニワトコ、アブラチャン、クロモジ、ヤマコウバシ、ヤブツバキ、ムラサキシキブ、ヤブムラサキ、ヤマブキなど、常緑ではサカキ、ヒサカキ、シラカシ、アラカシ、ヒイラギ、ヤブコウジ、マンリョウも確認できる。ヤブツバキは沢山の花をつけ野鳥に蜜を提供しているし、ヤマブキは黄色の花を咲かせ、アオキは赤い実でヒヨ

ドリを呼んでいる。ここに“シロミノアオキ”の株を見つけた。高尾山周辺で最初に発見された植物は63種類あるが、シロミノアオキはそのうちの一つである（1908年に命名）。5月頃までは“赤と白”の違いを堪能できる。

リョウメンシダ、カナワラビ、ベニシダ、ヤブソテツ、イノデ、オオバイノモトソウ、イワガネゼンマイ、フモトシダ、ノキシノブ、マメツタなどのシダの仲間も楽しめる。また、初夏を過ぎる頃に山の中に足を踏み入れると運がよければ希少な野生ランにも会う事が出来る。キンラン、ギンラン、ササバギンラン、ツチアケビ、キバナノショウキランなど。

ここは植物の宝庫。僅か2km程の道のりに、季節の移ろいと共に紹介した植物を含め、数多くの植物の息吹、花々、果実を楽しめる。好奇心を刺激する界限でもある。



（注1）林業試験場研究報告 NO.1
高尾山天然林の生態ならびにフロラの研究

高尾グリーンセンター 便り

今年は春の到来がいつもよりかなり早いように感じられます。三沢峠に至る2号路の尾根に登ると、榎窪沢の全景が見渡せて、人工林の中に点々とヤマザクラがみごとな景観を作っています。センターの八重桜も満開になり、これからいよいよ命の躍動するシーズンを迎えます。2020年度はコロナ禍に翻弄された1年でしたが、今年度はまた多くの皆さんにセンターをご利用いただきますようお待ちしております。



外観



集会室

高尾グリーンセンター利用案内

自然とのふれあいや学びの場に適した環境です。グループ活動や各種研修のための施設としてご利用ください。10名以上の貸切利用で受け付けています。ご希望により高尾グリーン倶楽部のメンバーが自然体験や間伐作業体験などのお世話をします。

■利用料金

- ・宿泊利用料金：大人 3,300 円、子ども 2,300 円
- ・日帰り利用料金：大人 1,000 円、子ども 500 円

■施設概要

- ・宿泊室 4 部屋（和 2 室、洋 2 室）定員 23 名
- ・集会室 40 人収容、調理室、浴室 2、野外バーベキュー施設
- ・駐車場 10 台
- ・調理用の什器類、バーベキュー用品等は一式そろっており、自由にお使いいただけますが、食材はすべて持ち込みです。
- ・上水道は、2017 年に新しく掘削されたおいしい井戸水です。
- ・森林作業体験は原則有料（インストラクター 1 人当たり 4,000 円）ですが、青少年等は減免措置あり、ご相談ください。
- ・詳しくはホームページをご参照ください。（龍）



<http://takao-green-club.pepper.jp/>

高尾グリーン倶楽部 森林ボランティア募集中

高尾グリーン倶楽部は、南高尾山域で森づくり活動を行っているボランティア団体です。“多様で豊かな森の再生”が合言葉です。また、グリーンセンターの利用者や市民の皆様を対象に作業体験を支援する活動を行っています。あなたも活動に参加し、私たちと一緒に汗を流しませんか。

活動日： 毎月第一日曜日 9:00 ~ 15:00 集合時間： 9:00 グリーンセンター集合

参加申し込み：Email ryu-kun@jcom.zaq.ne.jp Tel 090-4373-1555 龍久仁人宛

編集後記

昨年の秋からの半年は、従来のグループ宿泊のほか、新しい活動や施設利用が増え、第4号ではその様子をお伝えしました。原稿をお寄せ下さった方に感謝申し上げます。ありがとうございました。相変わらず 拙い三十一文字です。

- ・オレンジに白き紋付めかしこみ小さき尾を振りジョウビタキ鳴く
- ・ゆらゆらと風に揺れてる藤波の香りよ届け皐月の朝に
- ・春陽浴びオオイヌノフグリ道の端に娘が一番好きという花
- ・風に舞う白い花びらはだれかも雅び心の朝のひとつき
- ・禍去れば古き都を訪ね行きまほらの風に吹かれてみたい

編集委員 千谷 恵子

